

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成26年9月25日(2014.9.25)

【公表番号】特表2013-545159(P2013-545159A)

【公表日】平成25年12月19日(2013.12.19)

【年通号数】公開・登録公報2013-068

【出願番号】特願2013-529173(P2013-529173)

【国際特許分類】

G 0 6 F 13/00 (2006.01)

G 0 6 Q 10/02 (2012.01)

【 F I 】

G 0 6 F 13/00 6 1 0 A

G 0 6 Q 10/02

【手続補正書】

【提出日】平成26年8月11日(2014.8.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 3 】

本発明について本発明の例示的な実施形態を参照して特に図示し説明したが、添付の特許請求の範囲に包含される本発明の範囲から逸脱せずに、形態及び詳細に様々な変更を行い得ることが当業者には理解されよう。

なお、本発明は、実施の態様として以下の内容を含む。

〔 態 様 1 〕

コンピュータに実装され、追跡システムにおいてユーザと通信相手との通信を追跡する方法であって、

ユーザと通信相手との間での電子メールメッセージを監視すること、

電子メールメッセージが検出されると、前記電子メールメッセージを前記追跡システムに自動的にコピーすること、

前記電子メールメッセージを解析して、前記メッセージの送信者及び受信者を特定すること、

前記送信者及び前記受信者について前記追跡システムのデータベースを検索すること、並びに

前記送信者又は前記受信者が前記データベースにおいて見つかった場合、前記電子メールメッセージを前記通信相手の活動レコードに追加すること、

を含む、方法。

〔 態 様 2 〕

前記電子メールメッセージを活動レコードに追加することは、前記活動がインバウンド活動であるか、それともアウトバウンド活動であるかについての指標を追加することを含む、態様 1 に記載の方法。

〔 態 様 3 〕

前記電子メールメッセージを活動レコードに追加することは、前記メッセージがインバウンドメッセージである場合、前記メッセージの前記送信者の活動レコードに前記電子メールメッセージを追加することを含む、態様 2 に記載の方法。

〔 態 様 4 〕

前記電子メールメッセージを活動レコードに追加することは、前記メッセージがアウト

バウンドメッセージである場合、前記メッセージの前記受信者の活動レコードに前記電子メールメッセージを追加することを含む、態様 2 に記載の方法。

〔態様 5〕

前記送信者及び前記受信者のいずれも前記データベースにおいて見つからない場合、前記電子メールメッセージのコピーを削除することをさらに含む、態様 1 に記載の方法。

〔態様 6〕

電子メールメッセージを検出することは、カレンダーイベントの電子招待を検出することを含む、態様 1 に記載の方法。

〔態様 7〕

前記カレンダーイベントについての情報を前記データベースに記憶することをさらに含む、態様 6 に記載の方法。

〔態様 8〕

前記カレンダーイベントの被招待者について前記データベースを検索することをさらに含む、態様 6 に記載の方法。

〔態様 9〕

前記カレンダーイベントについての情報を前記被招待者の前記活動レコードに追加することをさらに含む、態様 8 に記載の方法。

〔態様 10〕

前記電子招待がキャンセルされた場合、前記カレンダーイベントについての情報を前記データベースから削除すること、及び前記カレンダーイベントのあらゆる被招待者の前記活動レコードから、前記カレンダーイベントについての情報を削除することをさらに含む、態様 6 に記載の方法。

〔態様 11〕

追跡システムにおいてユーザと通信相手との通信を追跡するコンピュータシステムであって、

ユーザと通信相手との間での電子メールメッセージを監視し、電子メールメッセージを検出すると、前記電子メールメッセージを前記追跡システムに自動的にコピーするメール転送モジュールと、

前記電子メールメッセージを解析して、前記メッセージの送信者及び受信者を特定し、前記送信者及び前記受信者について前記追跡システムのデータベースを検索する解析モジュールと、

前記送信者又は前記受信者が前記データベースにおいて見つかった場合、前記電子メールメッセージを前記通信相手の活動レコードに追加する追跡モジュールと、
を備える、システム。

〔態様 12〕

前記追跡モジュールは、前記活動がインバウンド活動であるか、それともアウトバウンド活動であるかについての指標を前記活動レコードに追加する、態様 11 に記載のコンピュータシステム。

〔態様 13〕

前記追跡モジュールは、前記メッセージがインバウンドメッセージである場合、前記メッセージの前記送信者の活動レコードに前記電子メールメッセージを追加する、態様 12 に記載のコンピュータシステム。

〔態様 14〕

前記追跡モジュールは、前記メッセージがアウトバウンドメッセージである場合、前記メッセージの前記受信者の活動レコードに前記電子メールメッセージを追加する、態様 12 に記載のコンピュータシステム。

〔態様 15〕

前記追跡モジュールは、前記送信者及び前記受信者のいずれも前記データベースにおいて見つからない場合、前記電子メールメッセージのコピーを削除する、態様 11 に記載のコンピュータシステム。

〔 態 様 １ ６ 〕

前記解析モジュールは、前記電子メールメッセージがカレンダーイベントの電子招待を含むか否かを判断する、態様１１に記載のコンピュータシステム。

〔 態 様 １ ７ 〕

前記追跡モジュールは、前記カレンダーイベントについての情報を前記データベースに記憶する、態様１６に記載のコンピュータシステム。

〔 態 様 １ ８ 〕

前記解析モジュールは、前記カレンダーイベントの被招待者について前記データベースを検索する、態様１６に記載のコンピュータシステム。

〔 態 様 １ ９ 〕

前記追跡モジュールは、前記カレンダーイベントについての情報を前記被招待者の前記活動レコードに追加する、態様１８に記載のコンピュータシステム。

〔 態 様 ２ ０ 〕

前記追跡モジュールは、前記電子招待がキャンセルされた場合、前記カレンダーイベントについての情報を前記データベースから削除し、前記カレンダーイベントのあらゆる被招待者の前記活動レコードから、前記カレンダーイベントについての情報を削除する、態様１６に記載のコンピュータシステム。

〔 態 様 ２ １ 〕

追跡システムにおいてユーザと通信相手との通信を追跡するためのプログラムコードであって、コンピュータ内に具現化され、コンピュータ可読なプログラムコードを有するコンピュータ可読媒体であって、前記コンピュータ可読媒体プログラムコードは命令を含み、前記命令は、プロセッサによって実行されると、前記プロセッサに、

ユーザと通信相手との間での電子メールメッセージを監視する手順、

電子メールメッセージを検出すると、前記電子メールメッセージを前記追跡システムに自動的にコピーする手順、

前記電子メールメッセージを解析して、前記メッセージの送信者及び受信者を特定する手順、

前記送信者及び前記受信者について前記追跡システムのデータベースを検索する手順、及び

前記送信者又は前記受信者が前記データベースにおいて見つかった場合、前記電子メールメッセージを前記通信相手の活動レコードに追加する手順、
を実行させる、コンピュータ可読媒体。